

# 東淀川区区政会議 健康・福祉部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 5 月 18 日(木)午後 7 時から 9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 健康・福祉部会委員 10 名、他部会委員 1 名

## 議題 1 平成 28 年度東淀川区運営方針自己評価について

### (2-2-1 女性の平均寿命延伸作戦 がん検診受診率が昨年度を下回ったことについて)

○総合がん検診の実施日は。数字に企業での検診は含まれるのか。

○28 年度から乳がん検診等の無料クーポンがなくなったとのことだが、理由は。今後もしないのか。

- ・がん検診は平日・土日祝日に実施。検診について主に国保、他保険加入者で受診機会のない人が対象。企業検診は含まれていない。検診車は 24 区割当で実施に限界がある。当区へは、年 14 回配車されている。
- ・健康局で未受診者対策をしている。要望はあげていく。

## 議題 2 平成 29 年度東淀川区運営方針について

### (2-1-2 複合課題世帯への支援について)

(区説明)「複合的な課題を抱えた世帯が多い」という部会意見から H29 東淀川区運営方針に反映した後、大阪市(福祉局)の「総合的な支援実施事業」モデル区として当区が指定された。

区役所で受けた相談を必要に応じて複数機関・専門相談員(スーパーバイザーやコミュニティワーカー等)と連携して開催する「総合的な見立ての場」を通じ支援につなぐ体制を整える。

○地域として高齢・障がい問題を把握した際、どのように相談していったらいいのか。アドバイス内容のフィードバックはされるのか。

○地域包括支援センターやランチ(包括支援センターと連携した区内 5ヶ所の総合相談窓口)への相談とは違うのか。

- ・相談については、今までどおり区役所の窓口に来ていただければ、そこから必要に応じて専門相談員や「総合的な見立ての場」につなぐ。アドバイス結果のフィードバックについては、本人が同意するのであれば個人情報も共用できる範囲内で事業者等には結果を提供する。
- ・地域包括支援センターやランチに相談いただくのも今までどおり。ランチ等の相談員から必要に応じ、専門相談員や「見立ての場」につなげることもできるようになる。

## 議題 3 東淀川区将来ビジョン～2022 年に向けて～について

○各地活協では毎年の行事を何とかこなしていくのが精一杯。福祉の話を協議する場もない。

○地域では見守りも素人。清掃活動でメンバーの欠席を気にするなど初歩のことから始めている。

○人間関係の構築が命。長い時間をかけて取り組みが必要。

○地活協が定着しない地域も。子どもの見守り活動や青パトなど個々の取り組みはこなせているが、横の連携がない。地域組織としてもっと連携する必要がある。

○地域の担い手不足・つながり薄い。地域と事業者(介護・福祉系)を結びつける取組みも必要。

○集まり顔をつなぐことで連携がとれ相談しやすくなる。今回の見立ての場で連携するような仕組みの実現に期待している。高齢者は包括等あるが障がいや子どもはどのような場に行けば。

○たたき台では連携・協働など似通った項目が多い。わかりやすいキーワード設定・整理が必要。

- ・今後、地域版の地域保健福祉計画の策定のための議論をすることが、つながりの場の第一歩にもなるのではと考えている。
- ・子育ては要保護児童対策地域協議会(要対協)などで連携の場がある。